

修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)【博士後期課程】

文学研究科宗教学仏教学専攻

後期課程では博士の学位請求論文の完成を目指します。その為には、

- ①後期課程に3年在籍し、指導教授のもとで自らの研究テーマに関する指導を受け、文献の解読や情報の収集や解釈を通じて、学界で評価される独自の研究成果を生む能力を身につけること。
- ②海外の研究動向をリサーチし咀嚼し、国際的に活躍できる外国語能力を修得し、博士候補者試験(外国語能力検定試験)に合格すること。
- ③査読付きの専門学術雑誌に掲載された論文1点を含む、学術論文3点を執筆・公開していること。さらに学界において専門的研究者として評価される高度な知識・能力を身につけること。

以上の条件を満たしていることが必須ですが、宗教学、仏教学、禅学いずれかの研究領域に関して高い識見を備えた、自立した研究者であることが求められます。

文学研究科歴史学専攻

歴史学専攻後期課程においては、研究の集大成として学位論文を作成することを目的とします。そのために、後期課程に3年以上在学して専任教授の下で学位論文の作成等に対する指導を受け、博士候補者試験(外国語能力検定試験)に合格した者が、専攻分野における学位論文を提出することができます。

博士学位論文は、各専攻分野において新知見を提示し、かつ、研究者としての自立した研究活動、又はその他の著しく高度な専門的業務に従事する能力及びその基礎となる豊かな学識を示すと判定されるものをもって合格とします。博士学位請求論文提出後、歴史学専攻後期課程担当教授からなる主査1名、副査2名、及び外部審査員1名から構成される審査委員会の予備審査および口述試験を含む本審査を経て、課程博士の学位を授与します。なお、博士学位請求論文の提出に際しては、査読付きの論文1本を含む最低3本からなる学術論文を執筆・公開していることが必要です。

なお、博士学位を取得するためには、以下の点も考慮されます。

- 1) 専修する研究領域において、独自の新しい新たな知見を提示して学会や社会において貢献できる能力を持つこと、ならびに高度な専門性を要求される職業を担うものとしての倫理感・責任感を持つこと。
- 2) 考古学専修者については、考古調査士一級の資格をもとに、考古学にかかわる発掘調査、出土品整理、報告書作成にかかわる技術論や方法論を高め、併せて関連諸科学の研究等を導入し、指導者となるべき自覚を持つこと。

文学研究科英語圏文化専攻

博士後期課程では、博士の学位請求論文の完成を目指します。論文提出には、次のことを満たしていなければなりません。

- i) 博士後期課程に3年在籍し、学則に定められた科目を修得し、博士候補者試験(外国語能力検定試験)に合格すること。
 - ii) 査読付き論文1編を含む最低3本の学術論文を執筆・公開していること。
- 提出された学位請求論文は、主査1名、副査3名(外部審査委員1名含む)による予備審査、本審査(口述試験)を経て、博士(文学)の学位が授与されます。

学位論文をその集大成として、博士後期課程で修得することが求められるのは、次に挙げる知識や能力です。

- iv) 英語圏文化に関する幅広く深い専門知識。
- v) 英語圏文化研究において問題の発見と解決に必要な情報の収集・分析・論理的な考察をおこなう能力。
- vi) 英語圏文化研究分野の独自のテーマについて新規性、発展性のある知見を発表し、社会に貢献する能力。
- vii) 高度な専門性を要求される職業を担う者としての見識、倫理観および責任感を身につけること。

文学研究科日本文化専攻

日本文化専攻博士後期課程では、愛知学院大学大学院学則に定められた特修科目1科目を修得し、5年[修士課程(博士前期課程)を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む]以上在学した上で、指導教授による論文作成の研究指導を受けた者が、課程博士論文を提出できます。課程博士論文提出後、主査1名、副査2名、外部審査員1名から構成される審査委員会により、口述試験を含む厳密な審査を経て、課程博士の学位を授与します。課程博士論文の審査に際しては、査読のある専門誌に掲載された論文1本を含む、最低3本からなる学術論文を執筆・公開していることを必要とします。

以上の博士学位取得の課程においては、「専門研究者としてオリジナルな問題を発見し、その解決を図れる能力」「必要な資料・文献・データを適切に収集、分析し、研究論文を作成できる能力」「高度専門職業人として活躍できる能力・倫理・責任感」を身に付けることが求められます。

心身科学研究科心理学専攻

以下の要件を満たした者に学位(博士)を授与します。

博士後期課程では博士の学位請求論文の完成を目指します。そこでは、博士前期課程での審査基準に加えて、当該学問分野における研究の発展性も審査基準となります。

博士後期課程で身につけることが求められるのは、「心理学研究者として問題の発見、解決に従事できる能力」、「実証研究に必要な資料、文献、データを適切に収集、分析、解釈し、研究論文を作成する能力」、「高度な専門職業人として活躍するに足る知識、能力」です。

心身科学研究科健康科学専攻

以下の要件を満たした者に学位(博士)を授与します。

- i) 博士後期課程に3年在籍し、博士候補者試験(外国語能力検定試験)に合格した者で、専攻分野における博士論文の審査に合格すること。
- ii) 健康科学研究の専門領域における独創的な教育、研究を遂行することで社会に貢献する能力をもつこと。
- iii) 高度な専門性を要求される職業を担うことができる知識、能力、倫理、責任感を身につけていること。

商学研究科

本研究科所定の課程を経て学位論文を提出した者で、商学分野において新知識を提示し、かつ、研究者として自立した研究活動またはその他の著しく高度の専門的業務に従事しうる能力およびその基礎となる豊かな学識を有すると判定された者に博士号を授与します。

経営学研究科

経営分野の研究者に求められる以下の能力を適切に評価して、総合的な人間力を身につけていると判定した人に博士の学位を授与します。

- ①経営に関する高度で専門的な知識・技能と研究能力を修得している。
- ②独自性に富む研究成果を生み出し、さらにそれを継続的に深化・発展させることができる。

法学研究科

法学・政治学の発展に寄与できる極めて専門的かつ高度な知識、論理的思考能力、問題発見・情報収集能力、及び相互の尊重に基づく討論能力を備え、学位論文(博士)審査基準を充たす論文を完成させる力量を示した学生に学位を授与します。

総合政策研究科 ※2024年度より募集停止

博士後期課程では、以下の項目を達成することで、博士(総合政策)の学位を授与します。

《学際性》関連研究分野への学際的知見と専門研究領域の知見を十分に総合させている

《公開性》研究成果を査読のある専門誌に公表している

《博士論文の作成》「総合政策研究科学位論文審査基準」(別紙)を満たした、総合的展望・専門性のいずれにおいても高い見識の備わった博士論文を作成、完成させている

《課題解決力》総合的な視点から具体的な企画・政策を提言できている